
「恒例行事」in グラインドハウス

ぱびふぺ河野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「恒例行事」 in グラインドハウス

【Nコード】

N81010

【作者名】

ぱぴぷへ河野

【あらすじ】

人形をテーマとしたコメディー。

さてさて、ここはある場所にある巷では結構有名な『人形寺』でございます。何が有名かと申しますと、人形寺と謳うからそりゃあ人形関連でほら、動くとか、声がするだとか、みんな大体うつすらと想像つくでしょ？

だからいちいち細かい説明はいらないよね？ いやいやいや！断じて説明が面倒くさいなどと言う手抜きではございませんよ。

さて、そんな人形寺に、毎度毎度飽きることなく夏の恒例行事と化した恐怖番組特集のネタを拾いに、TVのロケ隊とレポーターの中途半端なグラビアアイドルがやってきましたよ。

私達の暮らす部屋の外では、

「私、霊感が強いんです。何だか寒気がするうっ」とか、

「やだやだやだあつ！ なんかっ！ 今っ！ 変な音がしませんでしたか？」なんて胡散臭くて白々しいど下手な演技を恥ずかし気もなく披露しちゃってますよ。

いやいや、私たちは別に何もしてませんから。

しいて言うなればグラビアアイドルのポロリやパンチラなアクシデントを強く念じた武者人形の耕作さんのエロ邪念はガンガン出てますがね。

『今日もあのへっばこ自称『霊能力者』は来るのかいね？』

アンティークなフランス人形のマーガレットさん（人形年齢150歳）はやれやれとため息をついた。

『あいつ、マジパネエッスよねっ！ どんだけガセばらまいて荒稼ぎしてんだか（笑）ぶっちゃけネタ提供してやってんだから、ギヤラ払えよって感じッスよね』

新人フラ人形のギャル子がそう毒を吐きますと、

『ふん。所詮、人間如きになど…、わらわ達の気持ちなどはわかるまい…』

悲壮感を漂わせ、日本人形のマサヨさんは朱い振り袖の袖口で涙を拭った。

『あれ？ マサヨサーン、髪、また伸びター？ アイヤー、ソレニシテモ美しい黒髪ネ』

チャイナ人形のテンテンがマサヨさんの髪を褒めたらば、

『そうなのじゃ、わらわの髪はこんなに美しいのに…。それなのに、何故！ 何故！ あのお方はわらわをこんなカビ臭い古寺に捨てたのじゃ！ 毎夜毎夜わらわのこの美しい髪であのお方の頬を愛を込めて撫でて差し上げていたのにっ！』

『ああっ！ マサヨさん、興奮しちゃいけません！ ほらほら、テンテンの首が折れてしまっ！』

マサヨさんの隣でふぬうおおくと巻き付いた黒髪にタップするテンテンを見て、博多人形のサエさんが、どう、どうっ、とまるで馬を宥めるが如くマサヨさんを鎮めました。すると、部屋の引き戸が開き、

「ああ…、感じる。ほらすごいもう震える程の怨念よ…」

嘘っぱち霊能者と、

「ここが、常に奇怪現象が起こると言われるいわく付き人形達の部屋ですか…。何だか空気がもう怖いです」

「どうか御霊様方のご機嫌を損ねないようにお願いします…」

レポーターと住職が神妙な顔で部屋にやってきました。

『グラドルキタ ツ！』 耕作さんは興奮状態でパンツ、パンツと何やら激しく念じ始めました。隣で金太郎がいやんつ！と真っ赤な前かけ一枚のみの裸体を気にしてもぞりと両腕を動かしました。

「…！ い、今、なんかあっちのほう、動きませんでし…た？」

レポーターの顔が一気に引きつります。

「感じる、もの凄い怨念を感じるわ！」

『ハアハア…、パンツみせろおおっ、パンツううっ！』

…残念でした。まあ、ある意味怨念より恐ろしい耕作さんのエロ念が今絶好調に蔓延中です。

『あつは あんな超ブサイクのパンツ見たらマジ目が腐るってつか引つ込めマイナー女子！ カモーンイケメンって感じい？』

ギャル子はイエーイと腰ミノを振り踊ります。

「いやっ！ 今ガサツて音がしたっつ！」

「人形の悲しみを感じるわ…」

『あつは、残念っ、悲しんでない おっ！ カメラ、カメラっ！ イエーイ チョリーツス』

ギャル子はカメラに向かいウインクを投げました。

「うわあああつ！ い、今人形がっ！ 片目閉じたっ！」

カメラさんが恐怖のあまり叫びましたらば、

「いやあああつ！ やだやだやだっ！ もうっ！ 怖いよおおっ！」

グラドルはしゃがみ込み、頭を両手で隠して泣き出してしまいました。

『ふぬおおおーっ！ グラドルのパンツチャ ンスっ！…！』
『あつ、耕作さんっ！ 危ないっ！…！』

どこかしら声がすると同時に、耕作さんは棚からしゃがみ込んだグラドルの正面へと落下しました。

「ぎゃあああああああああああーっ！」 グラドルは目の前に突然落下してきた武者人形に目玉をひんむいて、けたたましい悲鳴をあげて、腰を抜かしてしまいました。

『ああっ！ しまった！ パンツが見えぬっ！』

耕作さんが悲痛な叫びをあげると、

『ギャハハハッ！ 超残念っ、耕作ちゃんっ！ 首が抜けたしっ』

ギャル子が爆笑すると、『耕作ドンマイ』

『ここからだとバッチリパンツ丸見えだぜい』

『ひゅー、ひゅーっ！　ねえちゃん、ええぞーっ！』　『紫とは！
なんと高貴な色じゃ！』

『男子サイテーっ！』

『うるせーブスは黙れー』

『ドールといったらバナナだよねー（笑）』

『ソレ、ドール違イヤンケっ！（笑）』

下段の人形はやんやんやと騒ぎ出しました。

「人間に対する凄まじい怒りと怨念に満ちているわ！　ダメよ！
もう私には耐えられない！　早く部屋から出なくては危険よ！」
青ざめた顔で叫ぶ霊能者と、這うように逃げるグラドルを見つめ
て、最早收拾がつかないほど皆はげらげらと笑い出しました。

そんな光景を見つめて私は、やれやれと苦笑うしかありませんで
した。

『ねえ、熊五郎さん、またそのうち来るかな？』と、私の隣の管女
のせつちゃんがワクワクしながら尋ねました。

私は小さく笑みを浮かべてひとつ頷くだけにしました。

人間というものは、なんと暇で下らなく平和な生き物であろうか
と思いつながら。まあ、私達も同様なのですがね。

（後書き）

主人公って一体誰やねん！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8101o/>

「恒例行事」 in グラインドハウス

2010年11月9日12時10分発行